

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ホリロ（郝日樂）

氏名のローマ字表記：Harnuud Horlo

所属：東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程

専門分野：言語学

発表のタイトル：モンゴル語オラド方言の副動詞 -sAAr の機能について

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表では、モンゴル語オラド方言の副動詞接尾辞 -sAAr について、テキストおよび母語話者へのインタビュー調査によって用例を収集し、その形態統語的特徴や、意味・用法を明らかにすることを目的とする。

モンゴル語のハルハ方言やチャハル方言を扱った従来の研究において、-sAAr は継続副動詞接尾辞と呼ばれ、動作の継続を表すほか、「～して以来」、「～してすぐに」という意味を表すとされている。一方、オラド方言の -sAAr については十分な検討がなされてこなかった。本研究の調査の結果、オラド方言における副動詞接尾辞 -sAAr は、他方言に比べると、出現頻度が極めて高く、上記の二つの意味以外に、条件を表すことが明らかとなった。条件を表す -sAAr は高い頻度で現れる。本発表で明らかにした -sAAr の具体的な形態統語的・意味的特徴、および用法は次のとおりである。

- a) 動詞語幹に接続し、動作の継続を表す。補助動詞 bai-を後続することもでき、継続・反復の aspekto を表す。等位節の述部となったり、定動詞的な働きをしたりする。
- b) 動詞語幹に接続し、「～するや否や」、「～したらすぐに」の意味を表す。ハルハ方言やチャハル方言で即時を表す副動詞接尾辞 -mAgɣʃ、-ɣgUUt と類似した意味を持つ。時を表す副詞節の述部となる。
- c) 動詞語幹に接続し、条件を表す。条件を表す副詞節の述部となる。

c) の用法に関するモンゴル語諸方言の先行研究を見ると、オルドス方言の -sAAr にも条件を表す用法が見られるが、同じく条件を表す副動詞接尾辞の -bAl との違いについては明らかにされていない。本発表の調査では、条件を表す副動詞接尾辞は全て -sAAr が現れており、-bAl の用例は 1 例も得られなかった。このことから、オラド方言の副動詞接尾辞 -sAAr は、他のモンゴル語諸方言の -sAAr より多機能的であると結論づける。